

## 第三者評価結果

事業所名：わらべうた幸町保育園

### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a

<コメント>

・全体的な計画の策定と見直しは、園長が主導し、園の状況や食育、地域の連携、職員の配置などを考慮して年度末までに行われている。この計画は、年間を通じての活動の基盤となり、それに基づいて各クラスで年間計画、月案が作成されている。乳児会議と幼児会議では、指導計画に関する具体的な内容や予定について職員間で議論し、意見を出し合っている。園全体で統一された目標に基づく保育を行いつつも、各クラスの特性や子どもたちのニーズに応じた柔軟な対応ができるように取り組んでいる。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>【A2】 A-1-(2)-①</p> <p>生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a

<コメント>

・保育室内は窓を常に開けて換気を心がけており、子どもたちが自由に取り出せるように配置された玩具や絵本で、自由に遊びに取り組むことのできる環境が整っている。玩具などは写真で示されており、取り出しや片付けがしやすい工夫もしている。  
 ・活動に応じたコーナーの設置や、廊下に置かれた絵本棚、巡回絵本などもクラスに配置され、幼児はソファでゆったりとした時間を過ごせるようなスペースも設けている。水遊びは玄関通路を活用し、テラスでの野菜や米の栽培、アゲハチョウの飼育など、季節ならではの取り組みや自然と触れ合う活動も積極的に取り入れている。

<p>【A3】 A-1-(2)-②</p> <p>一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

・幼児の合同保育から得られる気づきに基づいて週案を独自に作成するなど、保育の実践を深める取り組みが行われている。主体的な保育を実現するために、週案をWEB化し、これによって子ども一人ひとりの発達や家庭環境に基づく個人差を詳細に把握し、尊重する取り組みが進められている。このWEB化により、子どもたちの現在の発達状況や興味・関心に応じた指導計画を柔軟に調整し、個々の子どもに合わせた支援を行うことができるようにしている。その日の活動については、保護者や子どもたちが見やすいように掲示している。  
 ・不適切な保育を防ぐために、職員全体が定期的に研修や話し合いを実施しており、園独自の基準を設けることで、質の高い保育を提供することに努めている。職員間の意識統一や専門性の向上に努めており、安全で充実した保育環境となるよう心がけている。

<p>【A4】 A-1-(2)-③</p> <p>子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

・指導計画に沿って各クラスの子どもの発達に応じた援助を行っており、必要に応じて見直しを行うようにしている。園長の確認のもと、スタッフ会議で指導計画の共有が行われており、0歳児と1歳児は月齢に配慮した保育を実施し、時には異年齢の子どもたちと合同で遊ぶ機会も設けている。2歳児は進級に向けて着替えや片付けなどの自立を促す活動を取り入れており、トイレトレーニングは家庭での開始後、園でも支援を行い、家庭と相談しながら無理なく進めるようにしている。  
 ・年長児には1月頃から昼寝をなくし、学ぶためのスペースを分けて活動できる環境を提供し、椅子に座る時間やワーク活動などを取り入れている。子どもたちの成長と発達に対する理解を深め、進級や進学に向けた準備を効果的に進めていることがうかがえる。

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・子どもたちが自然と触れ合うことができるよう戸外活動を取り入れており、自然豊かな公園でのどんぐり拾いや昆虫採集などを通じて自然物と直接触れ合い、図鑑で調べたり、栽培活動で収穫した野菜を調理して食べる体験などもできるようにしている。室内でも体を動かせるように巧技台、平均台、鉄棒などを設置し、子どもたちの体力向上と運動能力の発達を促している。しかしながら、保護者アンケートでは、子どもたちの戸外活動を多くしてほしいとの声が多く聞かれているため、検討が望まれる。</p> <p>・季節の行事や保護者が参加する行事も積極的に行っており、運動会は小学校の体育館を利用して広いスペースで実施し、発表会は乳児と幼児で別々に園内で開催している。夏祭りは幼児主導でお店屋さんごっこや絵本の再現など、子どもたちの創造力を育む活動を行っている。遠足では幼児クラスがバスで農園へ芋掘りに出かけたり、年長児は東芝科学館などの教育的な場所へ出かける機会もある。親子遠足として、5月には全員で動物園に行くなど家族で楽しめるイベントも企画している。</p>	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>0歳児の受け入れは行っていない。</p>	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・入園直後は慣らし保育を約5日間行い、その期間を通じて子どもたちが園の環境に慣れるよう個別の状況や保護者の要望に応じた配慮を行っている。小人数のため、落ち着いた環境の中で子どもたちは安心して過ごすことができていることがうかがえる。</p> <p>・子どもたちの興味や好奇心を刺激するために玩具を定期的に入れ替えており、使用しない玩具は倉庫に保管することで常に新鮮な遊び環境を提供できるようにしている。保護者とのコミュニケーションは、送迎時の会話や連絡帳アプリの導入によって、一人ひとりと細やかにやり取りができるようにしている。また、登降園簿に保護者からの連絡事項などを記入して全体で共有できるようにしている。</p>	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・月齢や発達段階に応じた保育を心がけており、研修を通じて職員は様々な対応方法や環境の工夫について学んでいる。活動内容は年齢に合わせて分けられ、製作や表現遊び、ルール遊びなどは4歳児と5歳児の子どもたちが行い、3歳児クラスの子どもたちは別の活動をするなど、それぞれの発達に合った保育を行うようにしている。</p> <p>・散歩は合同で行うことで異年齢間の交流を促進し、遊びの内容や行事の企画にも子どもたちの興味や発達を考慮している。発表会では劇やダンスを取り入れ、季節ごとの特別な活動として年長児が夏季保育でカレーを作り、保護者と共に食べるなどの体験も取り入れている。保護者とのコミュニケーションはノートを使ったやり取りで密に行い、活動内容は園内に掲示して保護者にも共有している。幼児に関しては、子ども同士のトラブルが発生した場合、子ども同士で話し合いによる解決を図ることを促し、その過程を保護者にも伝え理解してもらえるよう努めている。</p>	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・全園共通のテキストを使用し、障害のある子どもへの理解を深めるために発達障害基礎10講座や発達支援コーディネーター講座などの専門的な研修を実施しており、職員が障害のある子どもに対する専門知識と対応スキルを向上できるようにしている。過去に障害を持つ園児が在籍していた際には、個別の指導計画を作成し、必要に応じて専門職員の加配を行い、専門機関との連携を取るなど、障害児対応の準備と経験がある。現在障害のある園児の在籍はないものの、必要に応じて迅速に対応できる体制が整っている。</p>	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・延長保育時間では、希望によって補食や夕食を提供しており、5時半からは年齢関係なく合同での活動を行っている。この時間帯は1・2歳児室で過ごし、子どもたちはゆったりと好きな遊びや絵本を読んだりして過ごせる環境が整えられている。幼児クラスの子どもたちが乳児の保育室で過ごすことになるため、普段はあまり遊ばない玩具での遊びが見られるなど、異年齢間の交流も促されている。 ・引継ぎには登降園簿を使用し、また、口頭でも職員間で子どもたちの一日の様子や特記事項を共有し確実に伝達できるように努めている。延長保育時間も子どもたちにとって有意義なものとなるよう、適切な環境設定と情報共有に取り組んでいる。</p>	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	<p>b</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・年長児が小学校生活へスムーズに移行できるようにするために、小学校との交流や情報交換に積極的に取り組んでいる。年長児の担任が小学校を訪問し、授業参観後に1年生の担任と情報交換を行っており、必要な学習や生活スキルについて理解を深めるとともに、小学校生活への準備を促進できるようにしている。 ・公立保育園を中心とした地域保育園の間での交流も新たに開始され、系列園との交流や小学校への要望提出も積極的に行われている。年長児クラスの子どもたちが小学校へ訪問したり、1年生と交流を持つ機会については今後の課題としている。</p>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・乳児クラスでは連絡帳アプリと口頭での確認を通じて、子ども一人ひとりの健康状態や体温、お迎え時間などに関する情報交換を行っている。幼児クラスも同様に健康状態や体温、お迎えの情報を記入してもらい、園と保護者間で情報を共有できるように努めている。 ・0歳児の在籍がないため看護師は在籍していないが、保健衛生担当者による健康教育が行われており、手洗い、うがい、歯磨きの重要性について、歯科衛生士を含む専門家からの話や、教材やペーパーサート、手洗いの歌を用いたプログラムを通して子どもたちへの指導を行っている。子どもたちが手洗いやうがいなどを通じて自分の体や健康に関心を持つことができるように援助している。</p>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・定期的に内科健診と歯科健診を行い、その結果を書面にまとめて保護者に通知している。子どもたちの健康状態を保護者が把握しやすくなり、必要に応じて速やかに治療を受けることができるよう配慮されている。 ・保健衛生担当者による研修を定期的に行い、保健衛生に関する確実な知識を職員が身につけられるように取り組んでいる。また、幼児クラスを対象に、年に数回「からだのはなしの会」を開催し、子どもたちが健康と衛生について楽しく学べる機会を取り入れている。</p>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	<p>a</p>
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・生活管理指導表を用いて定期的に保護者と面談を行い、日常生活での注意点や対応方法など、保護者との情報共有を行っている。食物アレルギーを持つ園児に対しては、アレルギー疾患の基礎知識やエビペンの使用方法など、必要な研修を職員が受けて知識を深め、完全除去食の提供を含めた安全な環境設定を心がけている。これらの取り組みを通じて、園児一人ひとりの健康と安全を守り、保護者との信頼関係を築けるように努めている。 ・園長、保健衛生担当者によって、年初や安全計画の月（年3回）などに、アレルギー対応、嘔吐処理、心肺蘇生などの研修を実施し意識を高めている。また、園医との連携に努め、感染症や通院の目安、アレルギー対応などについて相談できる体制である。</p>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<コメント>	
<p>・子どもの生活リズムに配慮し、乳児クラスはクラス別に、幼児クラスは合同での食事時間としているが、テーブルは年齢に応じて分けている。4歳児と5歳児は朝の会で献立を発表し、布団敷きや午後の掃除も手伝っている。栄養士は食事の準備と配膳の際にクラスを巡回し子どもの喫食状況を確認しており、好き嫌いに対しては励ましの声かけをし、子どもたちが自分で食べられる量を選ぶように配慮している。幼児クラスでは子どもたちが自ら配膳や片付けを行うことで、自立心を育て食に興味を持てるように援助している。</p> <p>・卒園に向けて年長児には子どもたちのリクエストメニューを取り入れ、洋食や酢の物なども織り交ぜ、子どもたちの好みに応じた食事を提供し、園での食事が思い出に残るように工夫をしている。また、レシピを玄関に掲示して保護者との共有も図っている。</p>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<コメント>	
<p>・2週間サイクルの献立で、魚と和食を中心に子どもたちが食べやすいやさしい味付けでの提供をしている。行事食では、世界の料理や郷土料理を提供し、誕生日には子どもたちが喜ぶ献立やケーキを用意している。毎月給食会議を開催し喫食状況の確認を行い、食事の形状やアレルギー対応、食育活動についても情報共有を行っている。</p> <p>・年間食育計画に基づき、各クラスで毎月の食育活動を実施している。乳児は野菜に触れたり蒸しパンづくりなどのクッキング活動、幼児はクッキー作りや、夏のカレーパーティでは近隣への材料買い出しからカレー作りまでを行うことができている。また、栽培活動では幼児たちが収穫したミニトマトを給食に取り入れたり、バケツ稲での収穫やかかしづくりなどの取り組みでは、写真をお米屋さん提供しており喜びの声が聞かれている。食育での取り組みの様子は保育ICTシステムや園だより、ブログ、ドキュメンテーションなどで保護者に伝えられている。</p>	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・年2回の保護者会を実施し、年初は次年度の計画や方針を説明し、年度末は過去1年の振り返りを保護者に伝え、次年度の保育に活かすための取り組みを行っている。保護者からの質問に対する応答の時間を設けることで、保護者の疑問や不安を解消し、園と保護者間のコミュニケーションを深めるように努めている。また、運営委員会を通じて保護者からの意見を収集し、園運営に反映させることで、保護者との協働を促進している。これらの取り組みによって、園と保護者が一体となって子どもたちの成長を支える体制を整えている。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・保育参加では、誕生日に保護者がクラスに参加し、子どもたちと共に給食を楽しむ機会を設けている。また、年2回の保育参観を実施し、保護者が日頃の保育の様子を直接観察できるようにしている。</p> <p>・個人面談は1歳児と年長児の保護者には必須で行っており、他のクラスの保護者には任意としている。個人面談は、ほぼ全員が参加しており、保護者と園の間で密なコミュニケーションが取れていることが報告されている。また、面談は保護者からの要望があればいつでも実施可能としており、園長も保護者の相談に対応して、保護者との信頼関係の構築に努めている。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・虐待防止マニュアルを整備し、職員に対する園内教育を徹底している。朝の受け入れでは、視診によって子どもと保護者の状況を確認するとともに口頭でも健康などについて確認している。子どもたちの身体的な変化や言動に注意を払い、日々の保育において安全と健康を最優先に考えている。</p> <p>・何か問題が発覚した際には、速やかに本社や行政と連携し、適切な対応を取る体制である。このような体制を敷くことで、子どもたちが安心して過ごせる環境を提供し、虐待などの未然防止に努めている。また、職員間での情報共有を密に行うことで、一人ひとりの子どもに寄り添った保育に努め、全員で子どもたちの安全を守る責任を共有している。</p>	

## A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>・年度後半には自己評価を実施し、その内容を保護者に提示しており、園での取り組みや子どもたちの成長過程を保護者に透明に伝え、保護者との信頼関係を深めるように努めている。また、年間計画に基づいた振り返りを通じて、保育の質の向上と今後の課題の特定に努めている。</p> <p>・日々の振り返りは、日誌、週案、月案を用いて行われ、日々の活動や子どもたちの反応、成長の様子を詳細に記録し、指導計画の見直しや改善に役立っている。園として継続的な改善を図り、子どもたち一人ひとりに最適な保育を提供することを目指している。</p>	